

評価委員会委員からいただいた主な意見(案)

点検・評価の客観性を確保する観点から、岸和田市教育委員会評価委員会各委員から点検・評価に関して以下のご意見をいただきました。

ご意見に対しますシートの修正や考え方について、記載 **(網掛け)** しております。

なお、今年度は台風接近による天候悪化等により急遽会議中止としましたので、例年開催している第1回会議は書面審議としました。

また、第1回書面審議後のご意見(第2回意見)は、**下線表示**で記載を加えています。

○教育総務部 総務課 他○

項目番号 10 教員の業務負担軽減に向けた取組の推進

◇ 産業医の面接等が増加していますが、「就業面の配慮や職場環境の改善」に結びついた事例はありますか。

⇒産業医の面談は、**在校時間を基に対象者を抽出しており、心身の不調に陥っていないか、健康面での問題はないかなどのアドバイスを産業医からいただき、面談の結果を意見書として学校長に渡しています。そこで就業上の措置が必要と産業医が判断すれば、その対応について校長に助言しています。具体的には校務分掌の変更等による負担軽減や、体調面に不安を抱える教職員には医療機関の受診を促すなどの事例がありました。**

◇ 「取組の成果(効果)目標」で、長時間勤務とありますが目安の時間があるのでしょうか。後の「令和4年度の取組内容」内の表で目安時間は推測されますが、説明書きを加えていただければと思います。

⇒「4. 取組の成果(効果)目標」欄内の1つ目の◇に追記をしました。

◇ 「成果(効果)目標」にある「校務の効率化や教育活動の質の向上につなげる」について、何か具体的な「成果の指標」はありますか。

⇒「4. 取組の成果(効果)目標」の3つ目の◇の**統合型校務支援システムの導入について、「成果の指標」である「統合型校務支援システムの利用台数」に対して、「成果(効果)目標」が数年後を見据えた目標となっており、違和感をお持ちになったことで、ご意見があったものと考えております。**

これは、全教職員が本システムにより情報の一元管理及び共有することで、品質・スピード・平準化など業務の質の向上が見込まれてくれば、「業務の効率化」が図られ、その分を教材の準備時間などに充てれば、「教育活動の質の向上」につながるものと考えておりました。

しかし、本システムには多くの機能が含まれており、教職員がそれぞれの機能について、理解や操作を習得するまでには一定の期間が必要になることが解りました。

これらを踏まえると、「成果(効果)目標」である「校務の効率化や教育活動の質の向上につなげる」という目標を1年で達成することは現実的ではありませんので、「4. 取組の成果(効果)目標」の3つ目の◇を「統合型校務支援システムを導入し、情報の一元管理及び共有を図る。」に変更いたしました。

また、「6. 評価」の3つ目の◇を「情報の一元管理及び共有」に変更し、「7. 今後の

課題・方向性」の3つ目の◇に「校務の効率化や教育活動の質の向上につなげる」を追記いたしました。

- ◇ 部活動指導員の配置数が昨年と同じだと思いますが、今後広がらないでしょうか。
 ⇒令和4年度は、部活動指導員を中学校2校に1名ずつ配置いたしました。配置先は陸上部と吹奏楽部です。令和5年度には、5校に1名ずつ、5名の配置としています。今後も、学校の部活動の状況も踏まえながら、配置については拡充も含め検討してまいります。
- ◇ 部活動指導員配置の取組は中学校2校に1名ずつとのことですが、各部活動ではなく特定の部活動のみに配置されているのでしょうか。特に放課後や休日の練習を必要とする部活動を担当する教員は、負担が大きいのではないかと思います。指導員以外にも部活動の時間や「休養日」を設定するなど、部活動自体のあり方に対する再検討も一つの手段ではないかとも考えます。
 ⇒平成31年1月に『岸和田市部活動の在り方に関する方針』を策定しています。そこには、「平日は少なくとも週1日、土曜日及び日曜日のいずれかは、少なくとも1日以上を休養日とする。また、土日に大会参加等で活動した場合は、他の日を休養日として振り替える。」と示しています。
 その他にも、子どもたちに過度な負担がかかることのない部活動運営等、部活動の在り方についての考え方を示しています。

《施策・事業に対する意見等》

- 「80時間を超えた月がある者」がR4がR3より少し増加していたのが気になりましたが、コロナウイルス感染症対策や新しいシステム導入なども関係しているのではないかと思いますので、今年度以降の結果にも期待したいです。
- 教員の業務負担軽減策として取り組まれている、勤務時間外の電話対応を音声案内にできる設備の整備や文書量の縮減のために電子化するなど、そういった積み重ねが負担軽減に繋がると思います。

○教育総務部 学校管理課○

項目番号8 体育館空調設備による環境改善

↓第2回意見：1つ目◇・2つ目◇追加

- ◇ 今後の課題・方向性で、今後は運転データ等を分析し、適正に空調設備の維持管理を行うとありますが、使用することによる電気代等についての予算などはどうなっていますか。
 ⇒使用することによる電気代等の予算については、令和4年度の予算に上乘せし、令和5年度の当初予算に見込んでおります。
- ◇ 学校開放において利用させていただいています。令和4年度に体育館の空調整備がなされたため、地域スポーツ関係の団体や他の利用者からも、大変活動の効率が上がり、とても気持ちよく利用させてもらっているとの声を聞いています。しかしその反面、今後の利用に関しては有料になるのではとの心配もされています。当然利用者負担もあると思いますが、いくらかの減免も考えているのか、これからの課題だと思います。
 ⇒『項目番号8 体育館空調設備による環境改善』についていただいた意見ですが、学校体育施設開放事業に関するご意見ですので、○生涯学習部 スポーツ振興課○項目番

号 16 社会体育施設の適切な管理運営と計画的な施設整備に掲載します。

○教育総務部 産業高校学務課○

項目番号 3 産業教育の充実

- ◇ デザインシステム科で定員割れが生じている原因と対策を教えてください。

⇒デザインシステム科では、令和5年度入学者選抜の競争率が0.85倍となり定員割れとなりました。

令和4年度入学者選抜では競争率が1.68倍に達し、大阪府内の公立高校で最も高い競争率でありましたが、そのことが、今年の入試において受験を敬遠されてしまう理由になった可能性があると考えております。

教員による中学校訪問や、中学生を対象とした夏休み中の体験入学などで、産業高校での学びや将来の進路イメージを掴んでもらい、受験につなげたいと考えます。

○学校教育部 学校教育課○

項目番号 1 授業の改善・読書活動の充実

- ◇ 「チャレンジテストの対府比」は現状維持ですが「放課後学習支援事業」「コグトレ」は大成果であると思います。「総括評価」は「目標を下回る」ではなく「目標どおり」ではないでしょうか。

⇒チャレンジテストの対府比に明確な改善は見られませんが、「放課後学習支援事業」「コグトレ」では成果が見られることから、「総括評価」を「目標を下回る」から「目標通り」に変更いたしました。

- ◇ 学校図書館事業で「学校と学校司書で、より連携した読書推進」の実例を教えてください。

⇒「6. 評価」の欄の〈読書活動事業〉の「学校と学校司書とでより連携した読書推進の取組」の実例については、(授業で子どもたちに学習内容に関係の深い図書の紹介、調べ学習の幅が広がる有効な図書の選定等)を追記しました。いずれも、学校司書が専門性を発揮し、授業の充実を図っている例を記載しました。

項目番号 5 生徒指導体制・教育相談体制の充実

- ◇ 小学校の暴力行為の増加の現状と要因は何でしょうか。いじめの認知増加との関連はありますか。

⇒小学校の暴力行為の増加については、暴力行為を行う児童自体が増えているというよりは、同じ児童が暴力行為を何度も繰り返す等の傾向が増加の要因と言えます。また、学校へは、小さなトラブルでもしっかりと見極め、暴力行為として計上するように、周知していることなどあると考えられます。その増加数が、いじめ認知件数にもつながっていると考えられます。

- ◇ 「いじめ解消率」について現時点での数値を教えてください。

⇒「6. 評価」の欄の「岸和田市小中学校における不登校・暴力行為等の数」の令和4年度の「いじめ解消率」として令和5年度1学期末の数値を記載しました。

教育委員会といたしましては「いじめ解消率」を高めていくことは非常に重要だと考えております。引き続き、解消に向けて取組み中の事案の1つ1つの進捗を確認しながら、

学校への助言を続け、解消率 100%に向け、取り組んでまいります。

- ◇ SC・SSW・SL の未然防止・深刻化防止の成果を数値(ケース数…等)で把握できないでしょうか。

⇒各学校園で、未然防止・深刻化防止の観点から、SC、SSW 等の専門家を交えケース会議を開催しています。そこでは、専門家からの助言等により、子どもたちの支援目標や役割分担が明確になり、支援内容が充実している状況は把握していますが、SC・SSW・SL の働きかけが未然防止・深刻化防止にどれだけの成果につながっているかを数値でお伝えすることは困難な状況です。

- ◇ 不登校やいじめ、暴力行為の課題について、早い段階（例えば小学校低学年）からロールプレイなどを通して、人の気持ちを考えたり理解を深めたりする機会をもつことも対策につながると思います。大阪市では毎年、ゴールデンウィーク明けに「いのち（いじめ）について考える日」を設け、各学級で考えた「いじめゼロ行動宣言」を一年間掲示しているようです。

⇒現在、各学校園では児童生徒に対して、道徳の授業で、規則を守ることや思いやりなどについて、日々の自分を見つめなおしたり、友だちと協力して行事をやり切ることで「仲間づくり」に取り組んだりしています。

また、学期に 1 回程度「相談週間」を設け、先生方が子どもたちの困りごとを聞いたり、生徒会による「いじめゼロキャンペーン」に取り組んだりするなど、各学校で様々な、いじめや暴力行為の防止や魅力ある学校づくりへの取組を行っております。

項目番号 7 体力向上の取組の推進

- ◇ 全国体力等調査・スキップロープチャレンジで成果があがっています。「総括評価」は「目標通り」ではなく「目標を上回る」ではないでしょうか。

⇒全国体力等調査・スキップロープチャレンジでの成果を踏まえ、「総括評価」を「目標通り」から「目標を上回る」に変更いたしました。

- ◇ 「事業の目的・概要」にスキップロープチャレンジとありますが、「今後の課題・方向性」で括弧書きで補足説明がありますが、最初の「事業の目的・概要」欄で記入されてはどうか。

⇒「2. 事業の目的・概要」の概要の「スキップロープチャレンジ」の後ろに（縄跳び運動）を追記し、「7. 今後の課題・方向性」の欄のスキップロープチャレンジの後ろの（縄跳び運動）を削除いたしました。

○学校教育部 人権教育課○

項目番号 2 「あゆみファイル」の活用

- ◇ 学生支援員の配置が、配置校・配置人数とも減少していますが、ニーズの問題でしょうか。

⇒学生支援員について、令和元年 25 校園 46 名の配置があったときから、毎年少しずつ、配置校、配置人数とも減少しています。学校からは、学生による子どもたちへの授業での声かけなどの支援により、学校生活をスムーズに過ごすことができ、子どもたちの気持ちの安定など、配置に対するニーズは依然としてあります。

この間の減少については、学生支援員としての応募自体が減少していることがあります。これは、この間のコロナ禍で、学生たちがボランティアなどの活動を控えていることや、市教委として、積極的な募集活動を抑えてきたことがあると考えられます。

今後は、募集については市HPや市広報などを使って積極的な周知を行ってまいります。

- ◇ 令和5年度予算が大幅(約2千万円)増ですが、「方向性」は「拡充」にならないでしょうか。

⇒令和5年度に介助員5名を増員したことから、「7. 今後の課題・方向性」を「拡充」と修正しました。

項目番号4 研修・啓発の充実

- ◇ 予算ベース決算ベースで急増(日本語指導関連指導補助員の影響でしょうか)していますが、その施策検証はされていますか。

⇒市内の日本語指導が必要な児童生徒数は、令和3年度49名でありましたが、令和4年度は59名で増加しており、通訳や国際親善協会からの補助員の派遣回数が増えていることから予算・決算が増額しております。

施策検証については、学期に1回、通訳者や補助員等でミーティング会議を実施しております。その場では、児童生徒の読み書きの力が身につく、学習への意欲の向上につながったことや、将来への進路決定に向けての助言ができたなどの肯定的な意見が出されていることを把握しており、施策効果はあったものと考えます。

- ◇ 研修満足度目標が80%に対し、実績が95%なので「総括評価」は「目標通り」ではなく「目標を上回る」ではないでしょうか。

⇒「成果の指標」である研修への理解度や満足度が、指標を上回っていることから、「6. 評価」の総括評価を「目標通り」から「目標を上回る」へ修正しました。

○生涯学習部 生涯学習課○

項目番号11 生涯学習基本方針の推進

- ◇ 事業費の未執行が大きいですが、どのような状況でしょうか。

⇒事業費は、生涯学習審議会(委員報酬、費用弁償)関係予算と生涯学習支援チームに関わる予算が主なものです。未執行が大きい原因は、審議会委員報酬を1委員あたり9,000円で18名分、3開催分の予算を計上しておりましたが、実際には、R4年度の開催は2開催(13名、12名)分の委員報酬の執行となりました。また、支援チームに係る予算にフラッグシップ事業時の講師などの報償費を約10万円計上しておりましたが、事業は各団体間の交流の取組がメインであったため、未執行となっております。

- ◇ 「成果指標」が会議の開催回数で良いでしょうか。とくに次年度以降は「事業」の参加団体数等の指標に変えていくのでしょうか。

⇒「4. 取組の成果(効果)目標」欄の「成果の指標」を「フラッグシップ事業の実施」に変更いたしました。

- ◇ 「事業の目的・概要」の注1等で折角丁寧に説明されていますので、社会教育支援チームのチームの内容についてもわかると嬉しいです。ご検討をお願いします。

⇒「2. 事業の目的・概要」欄の「概要」の2つ目◇の記載をチームの活動内容などにつ

いて改めました。

- ◇ フラッグシップ事業「きしわだマッチング・マーケット」に関して、スポーツ協会に声掛けされていましたが、スポーツ少年団へも声掛けいただければ子ども達の参加も得られ、賑わいも出るかと思えます。

⇒令和5年度のフラッグシップ事業については、これから支援チームで協議していくこととなりますが、子どもたちに関わる事業などを開催する場合は、是非参考とさせていただきます。

項目番号 12 学び舎プログラムの実施

- ◇ 「成果指標」にある「公民館講座に初参加の人数」の実績は。

⇒「5. 令和4年度の実施内容」欄で、各講座の参加者数の後にカッコ書きで初参加の数を記載しました。

- ◇ 昨年度も「総括評価」は「目標を下回る」でしたが、「学び舎ゼミ」や「まちづくり実践プロジェクト」の今後の方向性はどうか考えていますか。

⇒令和3年度、4年度と成果指標を下回る結果となっておりますが、より深い学びができる「学び舎ゼミ」では、令和4年度の参加者同士が集まり、家庭や子育てに関する課題とともに学び考えていく「家庭教育学級（中高生の保護者）」の開設準備を行っていただいております。また、「まちづくり実践プロジェクト」は、市職員の発想ではなく、市民の思いをカタチにできる事業だと考えており、今後も両事業を継続して実施してまいりたいと考えております。

- ◇ 「令和4年度の実施内容」の③の「創作的な講座について」ですが、説明することが難しいのでこの言葉で表現されていると思いますが、もう少しイメージしやすい但し書きがあれば嬉しいです。ご検討をお願いします。

⇒「5. 令和4年度の実施内容」欄③の2つ目の・の記載内容を変更しております。

○生涯学習部 スポーツ振興課○

項目番号 15 各種スポーツ大会・スポーツイベント等の実施

- ◇ 「成果指標」にある参加者とは競技参加者だと思いますが、機運醸成の視点も含め、観客数の目標設定等は考えないのでしょうか。

⇒観客数の目標設定について、BMXのジャパンカップは観覧の事前申込が不要であること、また、会場には出入口が複数あり、正確に観客数を把握することが困難なことから、観客数を目標値として設定することは考えてございません。

- ◇ 「取組の成果（効果）目標」で、スポーツ体験イベントの開催に市内スポーツ団体と連携してと記載があります。また、統合型スポーツ体験イベントなど実行委員会形式で行われるものもあります。市内で最大のスポーツ団体であるスポーツ協会へお声掛けいただければ協力させていただきたいと思えます。

⇒岸和田市スポーツ協会をはじめ、民間団体のご協力や連携によりまして、スポーツイベントの実施及びPRに取り組んでまいります。

項目番号 16 社会体育施設の適切な管理運営と計画的な施設整備

↓第2回意見：◇追加

◇（『**項目番号 8 体育館空調設備による環境改善**』についていただいた意見ですが、学校体育施設開放事業に関するご意見ですので、こちらに掲載しています）。

学校開放において利用させていただいています。令和4年度に体育館の空調整備がなされたため、地域スポーツ関係の団体や他の利用者からも、大変活動の効率が上がり、とても気持ちよく利用させてもらっているとの声を聞いています。しかしその反面、今後の利用に関しては有料になるのではとの心配もされています。当然利用者負担もあると思いますが、いくらかの減免も考えているのか、これからの課題だと思います。

⇒現在、学校体育施設開放事業におきましては、体育館や運動場をご利用の皆様にご利用料等のご負担はいただいております。

本市では、令和2年4月以降、「岸和田市受益者負担基本方針」に基づき、公の施設の使用料の適正化に取り組んでおり、学校体育施設につきましても、令和6年度以降の有料化に向け、現在、関係課と協議を進めているところです。

なお、施設の使用にかかる費用につきましても、減免制度を設けますが、空調使用にかかる費用につきましても、受益者負担の方針を踏まえ負担のあり方を検討しているところです。

○生涯学習部 郷土文化課○

項目番号 17 市内文化財を活用した普及行事の開催

↓第2回意見（表現の修正を求めるもの）：2つ目◇考え方修正

◇ ほぼ「成果指標」どおりの取組が実施される中で「総括評価」を「目標を上回る」とされた根拠は何でしょうか。

⇒「総括評価」を「目標を上回る」から「目標通り」へ修正しました。

◇ 予算が大幅に縮小される中で、「方向性」における「拡充」は可能なのでしょうか。

⇒予算には表れない展示解説や小学校への出前授業の更なる実施に加えて、行政文書や歴史的文書の整理・保存を進めていくため、「拡充」といたしました。

◇ 「成果指標」の44,100人が実数(44,168人)に極めて近いのはなぜでしょうか。

⇒1日の想定人数を140人とし、開場日数を昨年度より60日多い315日と見積もったところ、入場者数目標を達成しました。

項目番号 18 屋内外における多彩な行事の開催

↓第2回意見（表現の修正を求めるもの）：2つ目◇考え方修正

◇ 「成果指標」として概ね目標に近い数値ですが、その中で「総括評価」を「目標を上回る」とした根拠は何でしょうか。

⇒準備に時間と手間がかかる企画展を目標より1回多く開催することができ、年間入場者数が久しぶりに21,000人を超えたことから、「目標を上回る」といたしました。

◇ 予算が通常に戻る中で、「方向性」を「拡充」とする根拠は何でしょうか。

⇒学校・園との連携強化を進めており、制限緩和を受けて、今後、出前授業や教員研修などの取組が増加するため、「拡充」といたしました。

○生涯学習部 図書館○

項目番号 13 読書に親しむ環境づくり

◇ 昨年度報告されていた「保育所・幼稚園への配本」がなくなったのは何故でしょうか。

⇒「5. 令和4年度 of 取組内容」の項目を「青少年の児童書への理解と啓発」としており、保育所や幼稚園の園児が「青少年」と言えるのかどうかという疑問があり、一旦項目から削除しました。改めて「青少年の児童書への理解と啓発」の項目を確認したところ、一つ目に「乳幼児向け」のお話会の記載もしていましたので、項目を「青少年等」と改め、「保育所 12 か所、幼稚園 12 か所に定期的な配本を行った。」を加えております。

◇ 「学童への配本」は「チビッコホーム」への配本なのでしょうか。

⇒前年度報告書の「青少年の児童書への理解と啓発」のところで「学童保育 39 か所に月 1 回配本を行った」と記載しておりました。「学童保育」は場所を意味する言葉ではないため、今年度の記載では「学童保育」を「チビッコホーム」に変更して記載しております。